



# 都会から田舎へ。郷愁の旅へ

“I,” a man in his thirties, had been worn down by the hustle and bustle of the city and the relentless pursuit of efficiency, and had eventually come to harbor a “perfect void” within his heart.

One day, as if fleeing, he boarded a jet-black plane and disembarked at a remote local station in Kyushu with a view of the sea.

Just as the orange sunset (amber) began to bathe the old wooden platform in its glow, he met a young girl named “Nagi” on a bench.

She is not a ghost. She is the embodiment of the “innocent heart” he left behind in the city as he grew into an adult.

An hourglass that doesn’t let the sand fall. A marble that, when peered into, makes the world appear perfectly distorted.

On the platform echoing with the sound of waves, the two exchange slightly off-kilter philosophical conversations. As if to confirm her outline, the young man keeps snapping photos with his old film camera.

Eventually, as the sun sank into the sea and the world was enveloped in a serene blue (the blue hour), the silent last train glided into the station.

“You must return to your own world.” Nagi smiled as she spoke, then vanished along with the train.

Back in the daily life of Tokyo, all that remained in the young man’s hands was a single developed landscape photograph and the warmth of a “memory that never existed”—a memory that had certainly been there.

おいてきた想いに逢いにいく

なごのえき



九州観光機構様との共創を目指す、

新たなアートツアーリズム企画

提案元：STUDIO ELAN（福岡県拠点のクリエイティブスタジオ）

# なぜ、九州でなければならぬのか？

本プロジェクト『なぎのえき』の舞台が、他のどの地域でもなく、絶対に「九州」でなければならない理由は、以下の3つの奇跡的な条件が揃っているからです。

## 1. 交通インフラが持つ「奇跡的なコントラスト」

物語の主人公は、都会の効率化された生活に摩耗し、心に「完璧な空洞」を抱えています。この空洞を表現するためのプロローグとして、スターフライヤー様（北九州拠点）の「漆黒の機体と洗練されたプライベート空間」が絶対に必要です。そして、その「極限まで無駄を削ぎ落とした黒」から一転して、JR九州様の「温かみのある木造駅舎と、緑や海を抜けるローカル線」へと接続する。この「徹底した都会（空）」と「圧倒的な郷愁（陸）」という、これほどまでに鮮烈で美しいインフラのコントラストを描けるのは、日本全国を探しても九州（SFJ×JR九州）しかありません。



本作のビジュアルテーマは、夕暮れの「アンバー（琥珀色）」と、日が沈んだ後の「ブルーアワー」です。特に佐賀県唐津市の『山本駅』に見られるような、長い年月を積み重ねた木造の佇まいと、複数の路線が交差する独特の寂寥感は格別です。唐津という土地が持つ、海と歴史が交差する美しいロケーションは、主人公とナギが交差する「曖昧な時間」を表現するのに最適な舞台です。」西に海が開けている九州だからこそ撮れる、水面が黄金色に輝き、境界線が溶けていくような圧倒的なロケーションは、主人公とナギが交差する「曖昧な時間」を表現するのに最適な舞台です。

## 3. 「実在しない記憶」を呼び起こす、九州特有の「時間の湿度」

カラッと乾いたリゾート地ではなく、九州の鄙びた風景には特有の「時間の湿度」があります。錆びた駅名標、硬券を切るハサミの音、遠くで鳴るひぐらしの声、そして潮風の匂い。これらは、九州に縁がない都会の若者であっても、なぜかDNAレベルで「懐かしい（帰ってきた）」と感じさせる、日本の原風景としての力を持っています。私たちが撮りたいのは単なる綺麗な景色ではなく、この「時間の湿度」そのものです。

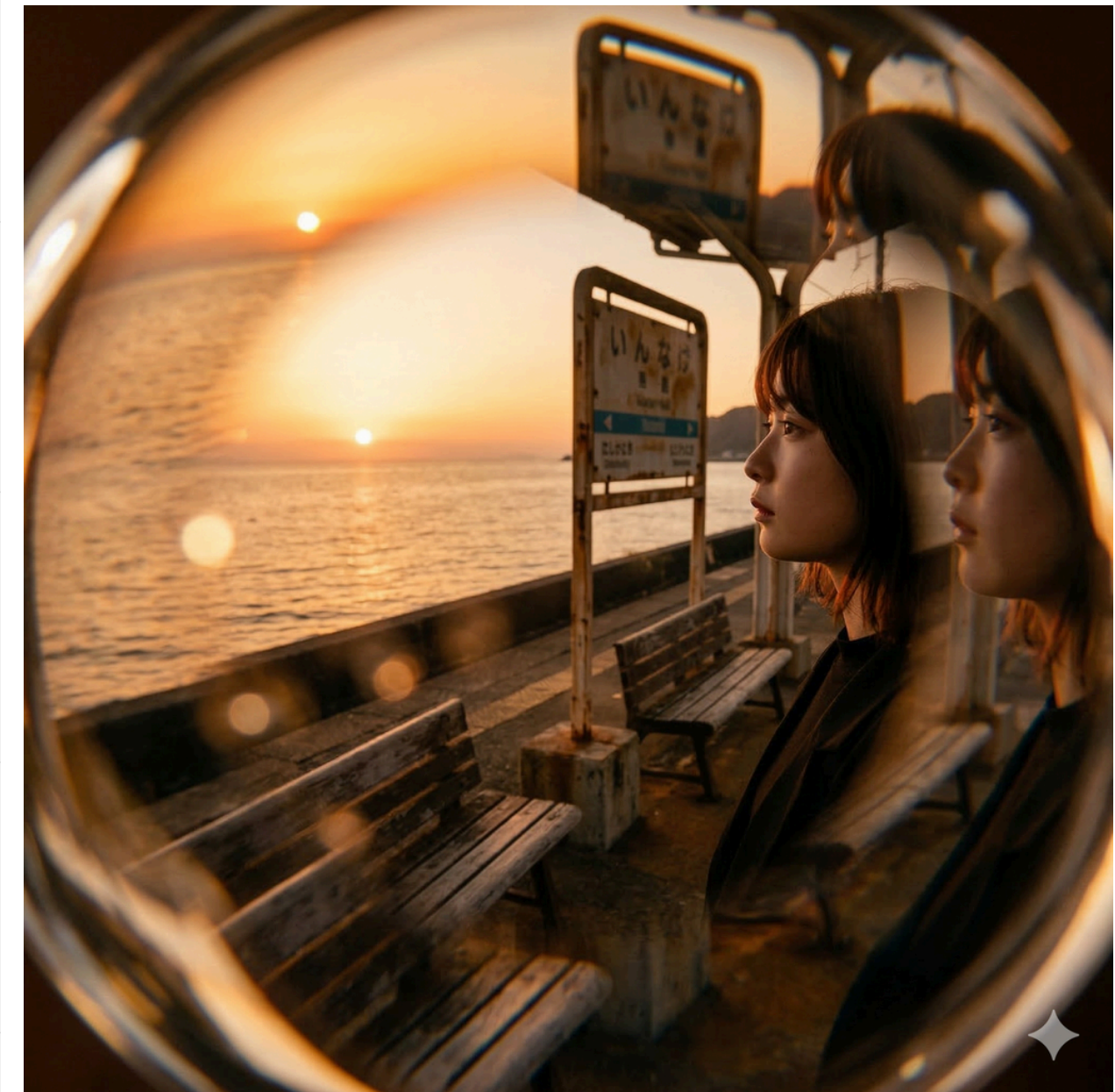
# 1. 企画の背景と目的

現代の都市部で働く20代～40代は、効率化された日常の中で深刻な「デジタル疲れ」と「情緒の枯渇」を抱えています。彼らが今最も求めているのは、作られたテーマパークのような非日常ではなく、\*\*「何もないけれど、自分の原風景（実在しない記憶）に触れられる場所」\*\*です。

本企画は、九州を代表する2つの交通インフラ（スターフライヤー様・JR九州様）と、STUDIO ELANのアート作品『なぎのえき』を掛け合わせるプロジェクトです。都会から九州の鄙びたローカル駅に至るまでの「移動時間」そのものを、失われた心を取り戻す「ひとつの物語（体験型ツーリズム）」として再定義し、新しい顧客体験と沿線・路線の価値向上を創出します。

## 2. コア・コンテンツ（作品概要）

項目	内容
作品名	『なぎのえき ― 実在しない記憶の記録』
コンセプト	「郷愁（ノスタルジー）」と「世界の歪み」
あらすじ	都会に疲弊した青年が、帰省先の鄙びたローカル駅で「かつての自分の純粋な心」が具現化した少女「ナギ」と出会う。夕暮れから最終電車までの曖昧な時間だけ、二つの世界が交差する不思議な物語。
展開媒体	特装版フォトブック出版、オーディオドラマ（音声コンテンツ）、没入型写真展



# 両社連動によるカスタマージャーニー（体験の導線）

## 【第1章：空の旅（離陸とプロローグ）】

舞台：スターフライヤー様の漆黒の機体と、全席革張りのプライベート空間。

体験：日常のノイズから遮断された機内で、オーディオドラマの第1話（青年が都会を離れる序章）を独占先行配信。目を閉じて聴取することで、乗客自身の「郷愁の旅」が始まります。



## 【第2章：陸の旅（到着とエピローグ）】

舞台：JR九州様のローカル線と、歴史ある木造駅舎（唐津市・山本駅を想定）

体験：温かみのある車窓風景を経て、ロケ地となった駅に降り立ちます。駅のベンチ等に設置されたQRコードから「ナギ」のAR音声（エピローグ）を聴くことで、現実と物語が交差する「聖地巡礼」が完成します。

# 各社様への具体的なご提案とメリット

## スタッフライヤー様へのご提案

機内エンターテインメントでの「オーディオドラマ独占先行配信」。

機内誌への美しいビジュアル（青とアンバーの写真）とショートストーリーの掲載。

メリット: 貴社のターゲットである「都会のビジネスパーソン」に対し、移動時間を「深い癒やしの時間」へと変える新しいブランド体験を提供できます。

## JR九州様へのご提案

ロケ地の提供（小規模有人駅での撮影許可）。

ロケ地駅での「AR音声体験スポット（QRコード）」の期間限定設置。

メリット: アート作品の舞台となることで、通過点に過ぎなかったローカル駅を「目的地（記憶の聖地）」へと変え、新たな乗客層（ストーリー・ツーリズム）を創出します。



# 安全対策とコンプライアンス（※最重要事項）



撮影およびイベント実施に際しては、両社の安全基準を厳格に遵守いたします。特に駅構内での撮影においては以下の対策を徹底します。

軌道内立ち入りの厳禁: 黄色い点字ブロックの外側や線路内での撮影は一切行いません。

フラッシュ撮影の禁止: 運転士の幻惑を防ぐため、自然光・定常光のみで撮影します。

一般客の動線確保: 機材による通路の占有を避け、専任の「安全管理担当者」を常時配置します。

少人数体制: 撮影クルーは最小限の4名体制とし、機動力を重視します。

# スケジュール（予定）



時期（2026年）	フェーズ	実施内容
4月～5月	企画調整	各社様との詳細なスキーム構築、ロケ地選定、安全確認。
5月中旬～6月上旬	制作・撮影	九州ロケ（駅構内でのスチール撮影）、オーディオドラマ収録。
8月～9月	PR開始	クラウドファンディングを通じた初期プロモーション、話題化。
11月～12月	リリース	フォトブック出版、機内コンテンツ配信開始、写真展開催。



「私たちは、ただ九州の綺麗な駅を撮影したいわけではありません。都会で疲れ果てた現代人が、スターフライヤーの黒いシートに身を沈めて日常から逃避し、JR九州のローカル線に揺られながら少しずつ心のピントを合わせ、最後に九州の美しい夕陽のホームに降り立つ。この『九州へ向かう移動体験』そのものが、彼らの心を救う一つの文学作品になるんです。九州という土地が持つ『郷愁』のポテンシャルを、最もエモーショナルな形で全国に発信するために、どうか貴社のお力をお貸しいただけないでしょうか



## ■ 唐津市様（唐津ツーリズム Kommission 様）との連携イメージ

- ・ 山本駅および周辺でのロケ撮影に関するご支援・調整・完成した高品質な写真
  - ・ 音響素材の、唐津市観光PRへの無償二次利用
  - ・ 「なぎのえき」ファンが唐津を訪れ続ける
- 「聖地巡礼（ストーリー・ツーリズム）」の持続的な創出

# 出演者紹介

氏名：桜乃 遥香（さくらの はるか）

生年月日：2005年3月9日（21歳）

職業：アイドル / 俳優 / タレント

現在の主な活動：中洲リバークルーズ 船上アイドル「AQuariA」 正規メンバー

アピールポイント（自己PR）

周囲を惹きつける「笑顔」と「明るさ」 持ち前の笑顔で、その場の空気や関わる人々を自然とポジティブにする力を持っています。現場のムードメーカーとして、また企業の顔として明るい印象を与えます。

目標達成に向けた「圧倒的な努力心」 掲げた目標に対しては一切の妥協を許さず、自己犠牲を払ってでも最後までやり遂げる芯の強さとストイックさを備えています。与えられた役割を全うし、期待以上の成果を目指します。

【起用理由】

普段の彼女が放つ「圧倒的な明るさ」があるからこそ、ふとした瞬間に見せる静寂や、夕暮れのホームに佇む時の「アンビバレントな表情（ギャップ）」が、都会に置き去りにされた純粋な心である『ナギ』のミステリアスな魅力に完璧に合致すると確信し、オファーに至りました。また、彼女の持つ「妥協を許さないストイックさ」は、この壮大なプロジェクトを共に完遂するための大きな信頼に繋がっています。



# THANK YOU



なぎのえき

おいてきた想いに逢いにいく